

# かたりべ 23

豊島区立郷土資料館だより

## 一本杉

郷土資料館では、九月二九日まで、特別展『こともの再発見―豊島の児童文化運動と新学校』を開催しています。ここでは、児童の村学校関係資料について紹介します。

私立池袋児童の村小学校は、明治以来の画一主義・つめこみ主義の公教育に反対した野口援太郎・下中弥三郎・為藤五郎・志垣寛の『教育の世紀社』同人によって、一九二四（大正一三）年、立教大学の南（現・西池袋三一五）に創立された、代表的な新学校の一つです。



児童の村では、児童の個性と自発活動の尊重が叫ばれ、教師・生徒といった区別のない、まったく自由で新しい活気にみちた少人数教育を実践しました。また児童の村は、野村芳兵衛や小林かねよ、戸塚廉といった、教育革新に燃える若い教師を迎え、生活綴方運動の拠点として、解散までの約一三年間、全国の小学校教師に大きな影響をあたえました。

『一本杉』と題するこの絵は、一九三五（昭和一〇）年十一月三、四日の日光卒業旅行で、当時六年生だった我妻吉方君がスケッチしたものです。この旅行では六年生全員（一〇名）が参加して、担任の戸塚廉先生とともに東照宮・中禅寺湖でスケッチや自然観察を行いました。

この当時児童の村は、入学生の減少による財政困難、教師間の教育観をめぐる意見対立等の問題が表面化していましたが、子どもたちの絵や日光旅行記、六年生新聞『太陽の子供』などは、当時の学校生活をうかがい知れる大変貴重な資料といえます。

やがて児童の村は解散し、これらの資料はその後東京大学教育学部の戸塚文庫におさめられ、今回はじめて皆さんに紹介することができました。



◇古記録にみる豊島のウォーターフロント  
弦巻川 ― その1・大根を洗う川

近年、都市生活空間の中で、さかんに見直しがすすめられているウォーターフロント。東京近郊の住宅地開発などによってその姿を消していた玉川上水や千川上水などに、ここ数年、生活のうるおいを求めて改めて水を流すなどの動きがあることはご承知の通りです。

豊島区でも、現在ではその全てが暗きよとなつている谷端川の流路跡に、谷端川親水公園を作るなど、生活の中に水や水辺を取り戻そうとする取り組みがなされています。

これから数回にわたり本誌に掲載する「古記録にみる豊島のウォーターフロント」では、かつて豊島区内を流れていた小さな川 ― 弦巻川・谷端川・千川上水や現在も新宿区との区境に流れる神田川、その他小さな井戸や湧き水に光をあてていきたいと思えます。

さて、第1回目は雑司が谷地区にお住いの方がたには馴染みの深い弦巻川（つるまきがわ）です。

後でも取り上げますが、弦巻川は一九三二（昭和七）年に当時の高田町の事業として進められていた暗きよ化工事が完成し、その姿を地



上から消したのですが、往時は雑司が谷八景の一つにもうたわれた風光を誇っていました。

この図は江戸神田の町名主・齋藤月峯らが完成し、一八三四（天保五）年から同七年にかけて刊行された『江戸名所図会』に描かれた弦巻川です。この図に描かれた場所は、現在の南池袋四丁目にある宝城寺・清立院前の道の交差点付近にあたります。現在では舗装路となつている弦巻川の流路や後に建てられた住宅を除けばこの風景はほとんど当時と変わっていません。いわば、この風景自体が区内に残された数少ない歴史的景観なのです。

弦巻川の水源は、現在の元池袋公園にある丸池（工事中）であつたと古文獻に記されています。この図では弦巻川は、画面左（西）から右（東）へと流れていることとなります。画面右上は現在の雑司が谷霊園の敷地内にあたり、そこから画面中央に下る坂が御嶽坂です。坂下の平坦地には、大根の洗い場があつたようで、収穫した大根を洗う二人の農民の姿が描かれています。この大根は、江戸府内へ運び売りさばかれ、雑司が谷村の農民の生活を支えていたのです。川の南岸には水田が広がっていますが、弦巻川はそれら水田を潤す用水としても利用されていました。暮らしの中に息づく弦巻川 ― その姿がここにあるのです。

（君塚仁彦）



# 学童疎開の新しい資料をいただきました

一九八七年の特別展以来、郷土資料館では戦時中の集団学童疎開についての調査・資料収集を続けています。昨年から調査報告書『豊島の集団学童疎開資料集』の刊行も始まりました（第一集は「時習国民学校」、第二集は「長崎第五国民学校（その一）」となっています）。

こうした調査にさいしてはたくさんの方の区内外の関係者（疎開経験者）の方のご協力をいただいています。その後も貴重な写真や書簡などのご提供をうけています。ここではそれらのうちから二つほどをご紹介します。

\* \* \*  
一つは恩田英子さんから寄贈いただいた書簡二〇点です。恩田さんは時習国民学校の五年生の時、長野県坂城町の大英寺というお寺に疎開しました。一九四五年一〇月一三日付けのお母さんから英子さんあての手紙の一部には次のようにあります。

……（前略）……。坂城の山々は紅に染め  
さぞ美しい事と思ひます 秋の山は一年中  
に一番よい時です ね いろ／＼めずらしい

事楽しいことばかりでせう 本の学用品の  
小包を送りました はなをは上等のを一足  
こしらへていただきましたから大切に用ふ  
ること 又家で作って送ります 身体を大  
切に 先生始め皆様によく さやうな  
ら （今の所葉書が買へませんから後に送  
ります）

時習国民学校についてはすでに『資料集』第一集でふれていますが、恩田さんや同級生の方々には第一集では出てこない貴重な体験談をお聞きしました。そのお話や恩田さんの書簡も機会をえて、公開したいと思ひます。

\* \* \*  
もう一つは柴田ゆきさんからいただいた東京第二師範付属国民学校の学寮日誌である「戦時集団疎開学園日誌」四冊を始めとする七点の資料です。柴田さんの亡夫・秀雄さんは第二師範付属の引率教員として山形県の上山市に疎開されました。これらの資料はその時のものです。

一部はすでに八八年特別展図録『子どもたちの出征』で利用させていただいていますが、今

回、柴田さんのご好意で資料館に寄贈いただきました。学寮日誌には毎日の行事や授業、食事、反省協議事項などが書き込まれており、疎開生活の内容を理解する手掛かりとなるものです。特に疎開した学校の公的な日誌類が豊島区では他にないため、今後の研究にとって非常に有益な資料となることと思ひます。

\* \* \*  
恩田さん、柴田さんを始め、資料提供者の方々にはあらためてお礼を申し上げます。今後とも多くの関係者の方のご協力をお願いするものです。なお、こうした資料は常設展示の中で随時、コーナーを設けて展示する予定です。

集団学童疎開とは第二次大戦末期、空襲の危険の迫った東京から、国民学校（小学校）の子どもたちが学校ごとに集団で地方へ移って生活を送ったことをいいます。豊島区からは一万数千人の学童が長野・福島・山形の三県で先生や寮母さんと共に、一年数か月の間、くらししました。親と離れて、飢えやホームシックに苦しみながらの生活でした。その間に豊島区の大半は空襲で焼けてしまいました。

## 戦争を考える夏

毎年八月をむかえると、各地で、戦争に関する様々な催しが開催されています。それというのも、八月六日と九日は

原爆が投下された日ですし、一五日は太平洋戦争が終結した日だからでしょう。

郷土資料館でも、八月の一一、一三、二三日に、歴史講座として「東京空襲と豊島区」という連続講座を企画いたしました。八月一日には、東京の下町空襲のスライドを見たり、一九四五（昭和二〇）年四月一三日の豊島区空襲で焼けた、いろいろな実物資料を見ていただきました。

また、八月一三日には豊島区を離れて、三月一〇日の空襲で、大きな被害を出した江東区内に数多く残る被災者の慰霊塔を見学してまわりました。

そして、八月二三日には、東京都内に残り、数少ない大規模戦跡である八王子市の中島飛行機地下工場跡を見学しました。

しかし、戦争に関連する日付で、我々が記憶に止めておかなくてはならない日は、八月にあるものだけではありません。



8月13日の見学会の際に訪れた、江東区白河の同潤会アパートの共同台所。空襲の火の跡が天井に残る。

るものだけではありません。一二月八日（一九四一年、日米開戦の日）や九月一八日（一九三一年、満州事変勃発の日）、七月七日（一九三七年、日中戦争が始まった日）なども心にとどめおくべき日付でしょう。

また、そのほかには、今から四六年前の三月一日が、東京の下町方面の大空襲で多くの人命が失われた日です。四月一三日は豊島区に大空襲

があり、区内の大部分が焼失した日です。これらの意味からも、郷土資料館では、八月という一カ月にこだわつつも、いろいろな機会に、戦争に関わるテーマを取り上げて、今後も様々な展示や講座を企画したいと思います。

## 編集後記

かたりべ二三号をお送りいたします。

\* \* \* \* \*  
予定では、夏の特別展の特集ということでしたが、特別展以外の事業についてもできるだけご理解いただけるように、ということ。これまでの事業とこれからの事業の紹介を兼ねた記事を掲載しました。

\* \* \* \* \*  
郷土資料館では、特別展以外にも歴史講座をはじめとする連続講座のほか、前号でも紹介した「失われた水辺を調べる」などのフィールドワークなども企画しています。ふるって、ご参加ください。

\* \* \* \* \*  
夏の特別展の終了に関わる、展示替えのため、九月三〇日（月）～一〇月一〇日（木）まで展示室を閉鎖いたします。ご了承下さい。

かたりべ

・  
No.23

・  
1991年9月25日  
発行

・  
豊島区立郷土資料館

・  
豊島区西池袋2-37-4

・  
電話03-3980-2351